

## 1 教科の到達目標(学習のねらい、身に付けたい力)

- ・ 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技術を身に付ける。
- ・ 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。
- ・ 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。

## 2 年間学習計画と単元(題材)

月	単元名	内 容	達成目標(ねらい)
4 5 6 7	いろいろな生物とその共通点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の観察と分類のしかた</li> <li>・植物の分類</li> <li>・動物の分類</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の観察に関する技能を身に付ける。</li> <li>・生物には様々な特徴があることを理解し、共通点や相違点によって、生物が分類できることを理解する。</li> <li>・植物や動物のからだの共通点と相違点を理解し、植物や動物を分類するための観点や基準を見いだすことができる。</li> </ul>
9 10 11 12	身のまわりの物質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりの物質とその性質</li> <li>・気体の性質</li> <li>・水溶液の性質</li> <li>・物質の姿と状態変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質に関する実験を通して、物質の性質について調べるや技能を身に付ける。</li> <li>・物質ごとの固有の性質や共通の性質について理解する。</li> <li>・気体の性質とその取扱いについて理解し、実験を通して考察する技能を身に付ける。</li> <li>・水溶液の性質及びその利用方法について理解し活用できる。</li> <li>・温度の変化による、物質の状態変化についてモデルを使って説明できる。</li> </ul>
12 1 2 3	身のまわりの現象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光の世界</li> <li>・音の世界</li> <li>・力の世界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりの現象について基本的な概念や原理・法則などを理解する。</li> <li>・身のまわりの現象について探究するために必要な観察、実験などの基本的な技能を身に付けている。</li> <li>・身のまわりの現象について、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。</li> </ul>
4 5 6 7 8 9 10 11	大地の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火をふく大地</li> <li>・動き続ける大地</li> <li>・地層から読みとる大地の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山活動や火成岩、火山災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。</li> <li>・地震の伝わり方と地球内部のはたらき、地震災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。</li> <li>・地層の重なりと過去のようすについて基本的な概念や原理・法則などを理解している。</li> </ul>

### 3 評価方法

評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。また、観察、実験などに関する技能を身に付ける。	・課題への取組 ・実験観察レポート ・定期考査 ・小テスト
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、規則性や関係性を見いだして表現している。また、探求の過程を振り返っている。	・課題への取組 ・実験観察レポート ・定期考査 ・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・課題への取組 ・実験観察レポート ・振り返りシート

### 4. 授業の取組についてのアドバイス

#### (1) 日々の授業について

- ①忘れ物がないようにしましょう。
- ②ノートは、後で見直したときに見やすいように書きましょう。
- ③積極的に考えたり、発言したり、図や文章で表現したりしましょう。

#### (2) 実験・観察について

- ①理科室の使い方、実験器具の使い方を守りましょう。
- ②共同実験者と協力して取組みましょう。
- ③方法や目的を理解したうえで、観察・実験に取り組みましょう。
- ④観察・実験の記録をとり、結果からわかることを考えて表現しましょう。

### 5. 家庭学習について

#### (1) 復習

- ①その日の授業で使ったノート、プリント、教科書などをもう一度読み、授業の内容を思い出しましょう。
- ②特に重要な内容は、その日のうちに覚えましょう。
- ③時間が経って忘れた頃に再び復習し、何度も繰り返すことで、少しずつ身に付けていきましょう。
- ④余裕があれば、要点をまとめたノートを作ってみましょう。

#### (2) 宿題

- ①宿題に取り組むことで、自分自身で定着度を把握しましょう。
- ②忘れていたこと、わからないこと、難しいことはノートや教科書で調べましょう。
- ③分からないと思いついてしまっただけで宿題をやらない、というようなことがないようにしましょう。

### 6. 定期テスト前の取組について

- (1) 誰でも、習ったことを忘れます。忘れた頃に復習をすることが効果的です。
- (2) 習ったことの確認(記憶のインプット)ができたなら、問題を解く練習(記憶のアウトプット)をしましょう。
- (3) 日頃から勉強をする習慣が大切です。テスト前に限らず、毎日勉強する習慣を付けましょう。

### 7. 苦手な人へのアドバイス

- (1) 教科書の太字の語句や、「ここがポイント」を中心に復習しましょう。
- (2) 教科書には各単元の最後に「学習内容の整理」のページがあります。要点がまとめてあります。